



お茶の水女子大学  
**ECCELL 社会人プログラム**  
**変革期の乳幼児教育・**  
**保育を考える**

平成26年度 前学期

〔開講科目〕

**乳幼児発達障害論Ⅲ** (水曜日) 2 単位  
 4/9(水)～7 月中 榊原洋一

**現代保育課題研究Ⅶ** (木曜日) 1 単位  
 4/10(木)～7 月中 榊原洋一, 浜口順子 ほか

**コミュニティ保育資源の活用Ⅲ** (集中講義) 2 単位  
 5/10(土), 5/24(土), 6/7(土), 6/21(土) 築地 律

**乳幼児保育マネジメントⅢ** (集中講義) 2 単位  
 7/24(木)～7/27(日) 安治陽子

**子ども理解と保育の探求Ⅲ** (集中講義) 1 単位  
 6/14(土) 高濱裕子, 6/28(土) 浜口順子,  
 7/12(土) 柴坂寿子

**現代育児論Ⅱ** (集中講義) 1 単位  
 4/26(土) 大豆生田啓友, 5/17(土) 大日向雅美,  
 6/1(日) 上垣内伸子

■ 受講生は「お茶の水女子大学 科目等履修生」として登録され、どの科目も授業回数の3分の2以上出席する他、一定の条件を満たした場合には、単位が認定されます。

■ **男性も受講可能**です。

■ 開講日時：シラバス (別紙) をご確認ください。

■ 納付金：

検定料 9,800 円

入学料 28,200 円 (継続の場合、3 年間有効)

授業料 14,400 円 (1 単位につき)

※本学卒業生・修了生は、入学料が無料となります。

**詳しくは、お茶の水女子大学 ECCELL ホームページ**  
**をご覧ください。**

⇒ <http://www.cf.ocha.ac.jp/nyuyoji>

**応募期間**

平成26年2月21日(金)～3月3日(月) (※消印有効)

**応募方法**

出願要項・入学願書をお茶の水女子大学ホームページからダウンロードしてください(大学教務チーム窓口にも直接請求することもできます)。出願に必要な書類を整えた後、下記送付先までご郵送ください。

⇒ **お茶の水女子大学ホームページ** : <http://www.ocha.ac.jp/>

〔願書送付先〕

〒112-8610 東京都文京区大塚2-1-1 お茶の水女子大学 教務チーム (電話: 03-5978-2722)

〔問い合わせ先〕

お茶の水女子大学 ECCELL 社会人プログラム (特別設置科目) 担当  
 電話: 03-5978-5949 E-mail: [nyuyoji-info@cc.ocha.ac.jp](mailto:nyuyoji-info@cc.ocha.ac.jp)

# 平成26年度 前学期 開講科目

## ■乳幼児発達障害論Ⅲ（水曜日）

榎原 洋一（お茶の水女子大学大学院 教授）

人の子どもの発達には、遺伝と環境の相互作用によって決定されています。本講義では、生物学的・医学的な視点で子どもの発達とその障害について概説します。前学期では、特に近年社会的関心の高い発達障害（自閉症スペクトラム障害、注意欠陥多動性障害など）について詳説します。医学的観点から見た発達障害について、分かりやすく解説します。

## ■現代保育課題研究Ⅶ（木曜日）

榎原 洋一、浜口 順子（お茶の水女子大学大学院 教授）ほか

本授業では、受講生自身の関心をもとに、乳幼児の保育や教育に関する問題や、保育現場などで直面するさまざまな課題について、各自研究テーマを設定し、ゼミ形式で話し合いながら研究レポートの作成を目指します。たとえば、子どもの発達や育ちと保育の関係、実践現場における子育て支援のあり方、観察記録やカンファレンスの活用、保育環境や表現の問題、海外の保育との比較や保育の歴史など、各自のテーマについて検討を行い、研究を進めていきます。人数が多い場合は、研究テーマによって少人数のグループに分かれ、複数の担当教員とともに考察を深めていきます。隔週木曜日の開講を基本としますが、受講生の予定によって柔軟に日程を組んでおり、個別指導を行うこともあります。学期末に、学習・研究結果をまとめて発表しますが、希望者には日本保育学会などでの発表もサポートします。

## ■コミュニティ保育資源の活用Ⅲ（集中講義）

築地 律（三鷹市「星と森と絵本の家」館長）

子どもは、園（幼稚園・保育園）での時間、家庭での時間、地域コミュニティでの時間を合わせた24時間を過ごしています。ともすると「園の中にいる子ども」「3年間（あるいは6年間）の園生活」に限定しがちな視点を、長い一生のうちの「子どもの時間」として見つめなおし、保育への地域資源の活用と、保育が地域にかかわっていくことの意義をみんなで考えたいと考えています。「子育てする地域文化の創造」を目指す三鷹市において、市民との協働によって運営されている「星と森と絵本の家」の活動を資料源とします。受講生の経験の交流によって進めていきますので、「園での子ども」「家庭での子ども」「地域での子ども」に関するバラエティ豊かな受講生が参加されることを期待しています。

## ■乳幼児保育マネジメントⅢ（集中講義）

安治 陽子（お茶の水女子大学人間発達教育研究センター 特任講師）

子どもや家族をとりまく社会的変化や保育の制度改革を背景として、保育のあり方は次第に複雑化し、保育空間も時間の構成も、集団の枠組みも、保護者の保育参加のあり方も、今後さらに多様化していくことが予想されています。現代の保育者の課題は、乳幼児の発達にかかわる教育資源（リソース）を豊かに想定し、それらを上手に日々子どもたちの生活に取り入れる力を身につけていくことでしょうか。本授業では、子どもの成長・発達にかかわる保育・教育資源を活用するうえでの『舵取り』力の養成を目指しています。前学期では特に「保育環境」に焦点を当てて検討し、質の向上を目指して先駆的な取り組みをしている園の実践に学び、運営上の課題を明らかにしていきます。施設見学なども取り入れる予定です。

## ■子ども理解と保育の探求Ⅲ（集中講義）

高濱 裕子・浜口 順子・柴坂 寿子（お茶の水女子大学大学院 教授）

3名の講師がそれぞれの視点から「子ども理解」について考えます。①東アジアにおける親の社会化の特徴：日本、韓国、中国の比較（高濱）、②時代による子ども・保育理解の変化（浜口）、③幼稚園・保育園での子どもの仲間文化の理解（柴坂）などのテーマを予定しています。幼児教育学、発達心理学、子ども行動学のそれぞれの視野が交錯するところから、子どもについて考えましょう。現場の保育者や社会人の方と、大学の学生がともに受講する場となります。

## ■現代育児論Ⅱ（集中講義）

大日向 雅美（恵泉女学園大学大学院 教授）・上垣内 伸子（十文字学園女子大学 教授）・

大豆生田 啓友（玉川大学 准教授）

現代の子ども、子育て、保育や子育て支援について、3名の講師がそれぞれの視点から取り上げます。最新の子育て支援施策の動向、地域における子育て支援と人材活用などについて、また今後の保育のあり方について、ともに考えましょう。